

平成16年度宮古群島病害虫発生予報第3号（6月予報）

6月の気象予報

要素別予報

| 要素 | 気温 | 降水量 | 日照時間 |
|----|----|-----|------|
| 予報 | 高 | 並～少 | 多～並 |

(平成16年5月28日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地域平均の要素別「平年並」の範囲

| 要素 | 気温() | 降水量(mm) | 日照時間(h) |
|------|-------------|---------------|---------------|
| 宮古群島 | 26.6 ~ 27.0 | 145.4 ~ 228.8 | 176.0 ~ 205.3 |

(平成16年5月28日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

6月の発生予報 および防除上の注意事項

向こう1ヶ月間に農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

宮古群島

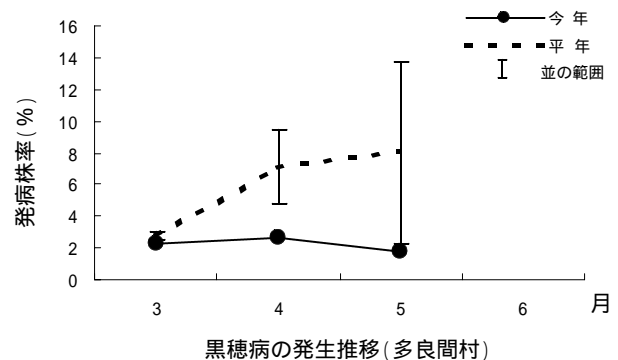
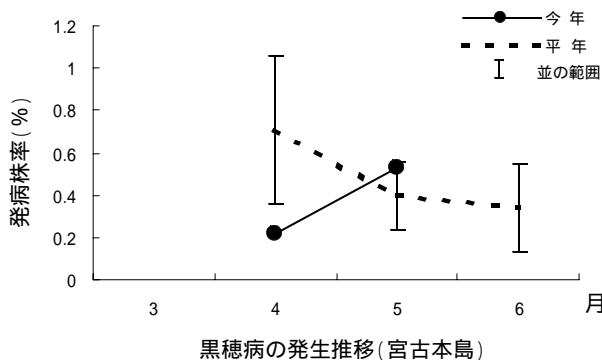
1 さとうきび

(1) 黒穂病

発生程度： 並（宮古本島） 並（多良間村）

予報の根拠

- a 宮古本島における5月中旬の調査の結果、新植夏植圃場と株出し圃場での発病株率は0.5%（前年0.2%、平年0.4%）と平年並であった。
- b 多良間村における5月中旬の調査の結果、新植夏植圃場での発病株率は1.8%（前年1.8%、例年8.0%）と例年並であったが、他地域と比べて依然として高密度である。
- c 宮古本島では、株出し圃場での発生が目立った。



防除上注意すべき事項

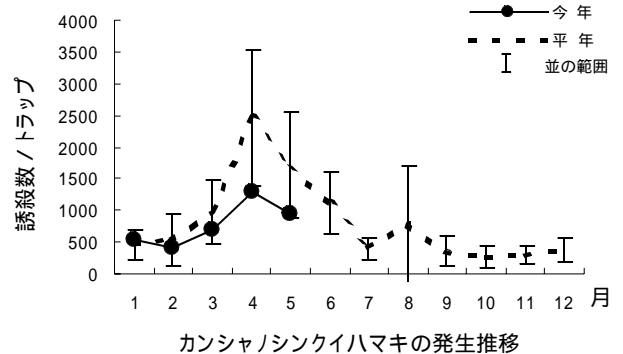
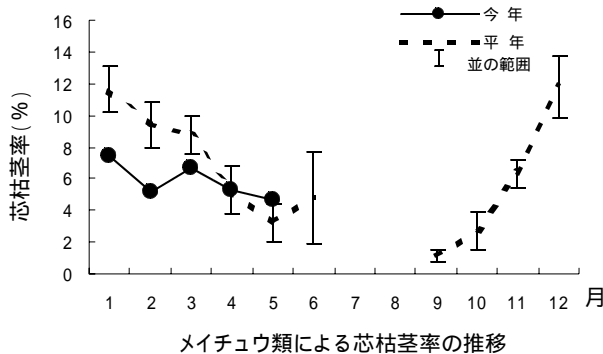
平成16年度沖縄県病害虫発生予察技術情報第1号（平成16年4月1日付け）参照。

(3) メイチュウ類

発生程度 : 並
予報の根拠

a 5月中旬の調査の結果、新植春植圃場での芯枯茎率は4.6%（前年2.8%、平年3.2%）と平年よりやや多かった。

b 5月のカンシャノシンクイハマキ性フェロモンによるトラップ当たりの誘殺虫数は944頭（前年1166頭、平年1703頭）と平年並であった。



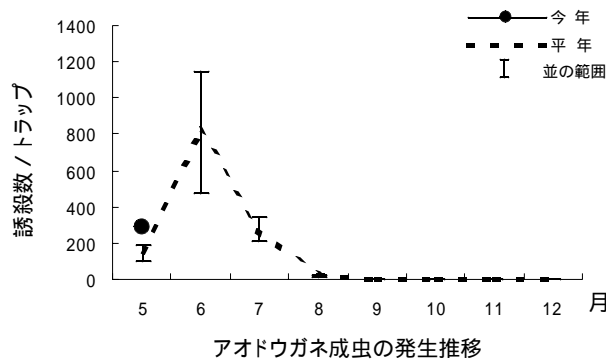
防除上注意すべき事項

- a 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除に重点を置く。
- b 植え付け時に土壤害虫の防除を兼ねた薬剤を選定し施用する。

(4) アオドウガネ

発生程度 : 多
予報の根拠

6月の予察灯への成虫誘殺数は290頭（前年36頭、平年141頭）と平年より多かった。



防除上注意すべき事項

- a 5～7月は成虫の発生時期にあたるので、誘殺灯の管理ならびに誘殺虫の回収処分を徹底する。
- b 6月中旬～8月上旬は幼虫の防除適期（1～2齢期）にあたるので、被害の多い地域では防除適期を逸しないようにする。

バッタ・イナゴ類の防除対策について

- a 5月中旬の巡回調査の結果、平良市島尻地区においてヒゲマダライナゴ幼虫を、多良間村においてはヒゲマダライナゴとタイワンツチイナゴ幼虫の発生を確認した。
- b 昨年、バッタ・イナゴ類の発生した以下の地域は今年も発生が懸念されるため、周辺のススキなどに食害を認めたら注意が必要である。
平良市：島尻地区、狩俣地区、大浦地区
多良間村：全域（特に大道、口原地区）

